

【しんれん借用状】

(端裏書) 「しんれんハうかしやう」  
(状)

(借請) かりうくる利銭の事

合九貫五百文者

右、件(田)のたハ、くま(熊野)の、御はつ(初物)をもものなり、しかるを

(と力)

(利分)

月こ□に貫別に四十文つゝをりふんにそへ候て、

(懈怠)

(ら脱)

(但) (質)

けたいなく上まいせ候へく候、たゝししち物にハ

(券)

(入置)

(ら脱)

円ゆうしてんのけんをいれをきまいせ候也、もし

(倍) (過)

(状)

(売券)

一はいおすき候ハ、このしやうおうりけんとして、

しやうあミたふになかくとりなかされまいせ  
(ら脱)

(後)

(沙汰)

(証文)

候へく候、よんで、のちのさたのために、さうもんのしや

(如件)

うくたんのことし、

(一一一九一)

正応四年十月二日

とりぬししんれん(花押)

あひともにせふあミた佛(花押)